

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38136
事業名	子どもの貧困対策推進費					
評価担当課	所属名	子)子ども育成 子どもの権利推				
	課長名	引地 志保	担当者名	江頭 路子	電話番号	011-211-2947
施策名	主	子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	①困難を抱えている子どもや家庭を早期に把握し、必要な支援や見守りにつなげる。 ②札幌市子どもの貧困対策計画を策定する。また、計画の進捗を管理し、検証・見直しを行う。 ③子どもや世帯の生活や教育、就労等の実態を把握し、課題を整理する。			
		長期	子どもたち一人一人が、その生まれ育った環境などに左右されることなく、毎日を安心して過ごしながら夢と希望をもって成長していくことができる社会の実現を目指していく。			
	取組内容	①子どものくらし支援コーディネート事業を実施する。 困難を抱えている子どもや家庭を早期に把握し、必要な支援につなげる「子どもコーディネーター」を配置し、相談支援体制の充実を図る。 ②札幌市子どもの貧困対策計画の評価・検証を行う。 ③②の計画改定に向けて、子どもの生活等に係る実態調査を実施する。				
実施結果	①令和3年4月より、子どもコーディネーターの人員を5名から7名へ増員し、巡回業務の拡大(市内全域の巡回を達成)と相談体制の強化を図った。 ②札幌市子どもの貧困対策計画に掲げる各施策の取組を進めるとともに計画の実施状況を評価・検証し、その内容を児童福祉部会において審議した。 ③②の計画改定に向けて、子どもの生活実態調査を実施した(実施項目:アンケート、支援者ヒアリング、座談会)。					
事業実施における工夫点	子どものくらし支援コーディネート事業では、週に1度ケース会議(子どもコーディネーター、当課職員による)を開催し、困難ケース等への支援方法を検討。 また、当該事業の認知度を促進するべく、教育委員会等関係部署と情報共有・協議・連携を図った。					
対象者	困難を抱えている子どもや家庭	開始	平成30年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成25年6月制定、令和元年6月改正)、「子供の貧困対策に関する大綱」(令和元年11月)					
他都市の状況	①コーディネーター等を配置する類似事業としては、政令市では、千葉市、大阪市で実施。 ②政令市では、仙台市、新潟市、千葉市、横浜市、浜松市、大阪市、熊本市が単独計画を策定。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	22,698	33,000	30,054	28,000	
うち特定財源	5,000	6,500	9,619	7,500	
人工	2.1	2.1	1.8	2.0	
人件費	15,120	15,120	12,960	14,400	
計(事業費+人件費)	37,818	48,120	43,014	42,400	
事業費の内訳	令和3年度決算	①子どものくらし支援コーディネート事業:27,060千円、普及啓発:64千円 ③子どものくらし生活実態調査関連:2,613千円 その他事務費:317千円			
	令和4年度予算	①子どものくらし支援コーディネート事業:27,121千円 ②児童部会関係費:321千円 ②子どもの貧困対策計画作成・印刷・製本費:558千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	子どもコーディネーターの新規巡回箇所数(児童会館を除く累計)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	73		131	158	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	子どもコーディネーターの新規相談受件数(単年度)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	288		293	300	
成果指標2	指標名	子どもコーディネーターの継続支援件数※年度末時点(単年度)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	605		687	700	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	①令和3年度は新規相談受件数293件、支援継続件数が687件という結果から、潜在的に困難を抱えている子どもと家庭を把握して必要な支援を検討し結びつけるという当該事業の目的を達成していると考えられる。 ②計画の進捗管理とともに、前年度の実施状況について評価・検証を行った。 ③②の計画改定に向け、子どもの生活実態調査を実施した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	①令和3年度から子どもコーディネーターを2名増員(令和2年度5名→令和3年度7名)。それに伴って事業費も増額となったが、巡回範囲の市内全域拡大を達成することができた。 ②③必要最低限の経費であり、事業規模は適切と考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	①子どもの居場所巡回というアウトリーチ型支援は、子どもの生活面に密接した潜在的な問題を把握するうえで効果的・効率的であり、当該事業の目的を達成している。また、事業委託にすることで、事業者が持つ様々な支援機関とのネットワーク力・支援のノウハウを活用することができる。 ②関係部局との調整や有識者会議への報告も行いながら、計画の進捗管理を行っている。 ③北海道大学と共同実施することにより、有識者意見を取り入れながら次期計画改定に向けた有用な調査結果を得ることができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	①令和3年度の事業結果(新規相談受件数293件、支援継続件数687件)より、当該事業のアウトリーチ型支援は自ら支援につながるということが難しい対象者の潜在的なニーズに応えていると考える。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	①子どもコーディネーターの活動拡大により、学校や各区保護課との情報連携を要する事例が増加している。 関係部局に対し当該事業の認知度をさらに上げる取組みを検討するとともに、子どもコーディネーターとの情報連携によって重層的な支援につながるという有効性についても認識を高め、協力体制を発展させていく必要がある。				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	①教育委員会で実施する研修で子どもの貧困問題や子どもコーディネーターの活動内容を紹介。事業への認識を深め、協力体制の推進を図った。また、今後は各区保護課職員への研修も実施予定。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	①令和3年度実績値から、事業の有効性を確認することができたため。また、事業の課題を認識し、改善のために取り組んだ。②計画を支える事業の担当部局との調整・連携を図ることができた。③北海道大学との共同実施により、アンケート結果の適切な分析・検証を行うことができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 ①児童会館以外の民間学童・子ども食堂など地域の民間支援団体等へ子どもコーディネーターの巡回先を拡大し、さらなる支援の拡充を図る。 ②③の結果を踏まえ、有効性・実効性のある計画改定を行う。			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 ①子どもコーディネーターの現人員での事業検証を基に、増員について検討していく。		見直し効果額	0